



リベルサス錠の規格における注意点



リベルサス錠は2021年6月に製造販売が承認された血糖降下薬で、世界初の経口GLP-1受容体作動薬です。

規格としては3mg, 7mg, 14mgがありますが、この規格は相互に代替不可となっています。
(例：14mg1錠を服用している場合7mg2錠で代替することはできない)
それはなぜでしょうか？

吸収させるための戦略

- リベルサス錠の有効成分であるセマグルチドは分子量が大きいため胃粘膜を通過することができず、また胃酸によって分解されてしまうため、そのままでは吸収させることができません。
- 吸収をよくするため開発されたのがサルカプロザートナトリウム (SNAC)です。

SNACの特徴

- 局所の胃酸を中和する
- ペプシンの産生を減少させる
- モノマー（単量体）化することで分子量を減少させる
- 胃粘膜の透過性を亢進させる



- これらの作用から、セマグルチドを適切な量のSNACと配合することで薬剤の吸収を促進させることができます。
- 吸収されるのは全体の数%程度ですが、リベルサスの半減期は約1週間と非常に長く（注射製剤は週1回投与）、連日服用することで有効血中濃度までもっていくことが可能です。

適切な配合量

- SNACは1錠あたり300mgが配合されており、多くても少なくとも吸収促進作用が低下することがわかっています。
- 複数錠を服用してしまうとSNACの量が多くなってしまい、薬剤の吸収量が低下してしまうおそれがあります。

以上のことから規格が異なる錠剤で代替することは不可となっています。
リベルサス錠を服用する際は1回1錠を徹底するようにしたいですね。

